



最終回

みんなが生活しやすいにとって どんなこと？



12月号から5回にわけて、一人ひとりちがっているみんなが、それぞれに生活がしやすいま
ちをつくるためのヒントを探します。いろいろな「不便さ」や「困ったこと」の解決方法を考え、一
人ひとりが「できること」を探しに行きましょう。

未来への
ヒント

みんなが みんなに やさしくなれる方法



みなさんは歩道に自転車が止められていて、歩いて通りにくかったことはありませんか？車いす
やベビーカーを使う人、荷物を持っている人、小さな子どもを連れている人だったらどうでしょう
か。みなさんより通りにくかったり、通ることが出来ないかもしれません。みんなが自転車を決め
られた場所に止めることで、みんなの「困った」「不便」を減らすことができます。

また、みなさんにもいつもとちがう初めての場所や出かけた先、いつも利用する駅とはちがう大
きな駅などで「不便」「困った」を感じたことがあるかもしれませんが、毎日いろいろな「不便」「困
った」を感じて生活している人たちもいます。「不便」や「困った」は、その時その人でちがいます。だか
ら「不便」「困った」の解決方法に、決まった答えはありません。何に困っていて何が必要なのか、ど
ういう手助けだと助かるのか、その時その人と一緒に考えることが大切です。その理由は、
自分が良いと思っても、その人にとってはイヤなことかもしれません。また、ある人にとっては良
いことでも、別のある人にとってはイヤなことかもしれません。困っている人に気がついたときに
は、どうやって手助けしていいのかわからなくてもいいので、声をかけましょう。声をかけ
ると、助けが必要な時には、どのように手助けしてほしいのかを伝えてくれます。助けが必要ない時
には、断ってくれます。

相手のことも知って、あなたのできることを一つひとつ増やしていくと、あなたの周りも変わっ
ていきます。そして、私たち一人ひとりができることを続けることで、みんなにとって生活しやす
いまちになります。

お知らせ 令和6年4月1日から、事業者も、
合理的配慮の提供が義務化されました！

改正内容	行政機関	事業者
不当な差別的取扱い	禁止	禁止
合理的配慮の提供	義務	努力義務 → 義務

障害者差別解消法が変わりました！

共生社会の理解に役立つ絵本「ワラビー
のレストラン クワガドエのお客さん
(発行：江戸川区)」を町立図書館でぜ
ひご覧ください。(江戸川区ホームペ
ージ「共生社会のえほん」では、オーディ
オブックも公開されています)



問 社会福祉課共生社会係 95-1904

みんなが生活しやすいにとって どんなこと？

第1回



精華町には、赤ちゃんから高齢の人まで、いろいろな年齢の人たちが生活しています。

体を自由に動かすのがむずかしい人や日本
とちがう国から来た人も生活しています。一
人ひとり似ているかもしれないけれど、みん
なちがっています。

みんながそれぞれに、いろいろな「不便さ」
や「困ったこと」を感じて、生活をしているこ
とがあるかもしれません。ほかの人が感じて
いる「不便さ」や「困ったこと」には、気がつか

ないことがあるかもしれません。

一人ひとりそれぞれが生活しやすいまちを
つくるためのヒントをいっしょに探してみま
せんか？

今月から5回にわけて、いろいろな「不便
さ」や「困ったこと」の解決方法を考えます。

さあ、わたしたち一人ひとりが「できるこ
と」を探しに行きましょう。

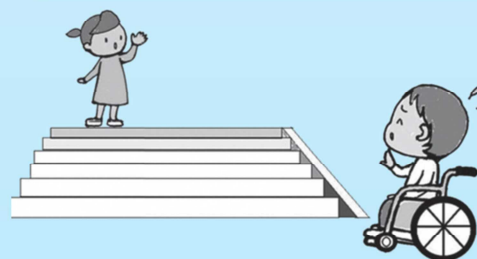
未来への
ヒント

社会の中の障害ってなんだろう？



みなさんは、「障害」について考えたことがありますか？

「耳が聞こえないこと」「目が見えないこと」「歩けないこと」「自分の気持ちを伝えることが苦手な
こと」など、いろいろな体や心の状態の人が「不便」や「困った」と感じることを「障害」と言います。



その「障害」が、社会の中にたくさんあります。そのため、
みなさんが安心して生活するための「工夫」もたくさんあり
ます。それは、みなさんが、ふだんあまり気にしていない
ことかもしれません。

例えば、道にある階段は、歩ける人は一人で上がること
ができます。階段が「障害」になって、その道を通ることが

難しい人もいます。

けれども、道がゆるやかなスロープになっていれば、
車いすを使っている人、高齢の人、ベビーカーを使っ
ている人、小さな子ども、おなかに赤ちゃんがいる人、
足をけがしている人、だれでも通ることができます。



精華町広報誌「華創」2023年12月から2024年4月に掲載した記事をまとめました

バリアフリートイレは、障害のある人、高齢の人、ベビーカーを使っている人、だれでも使えます。駅やバスの案内では、写真やイラストを使ったり、ひらがなで大きく表示したり、外国語の表示をしたりして、だれにでも分かりやすくなっています。

けれども、みんなの「不便さ」や「困ったこと」がすべて解決するわけではありません。

それぞれが、どんなことで困っているのかを伝え合えること、自分以外の人への「不便さ」や「困ったこと」に気づけること、いっしょに解決する方法を考えられること、助け合えること。

これらができると、少しずつ社会の中の「障害」がなくなり、みんなにとって生活しやすいまちになります。

東京都江戸川区で、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会を実現するために、誰にでも分かりやすく伝わる絵本「ワラビーのレストラン クワガドーエのお客さん」を作成されていますので、紹介します。絵本は、町立図書館で借りることが出来ますので、ぜひご覧ください。(江戸川区ホームページ「共生社会のえほん」では、オーディオブックも公開されています)



お知らせ 令和6年4月1日から、事業者も、合理的配慮の提供が義務化されます！

改正内容	行政機関	事業者
不当な差別的取扱い	禁止	禁止
合理的配慮の提供	義務	努力義務 → 義務

障害者差別解消法がわかります！

12月3日から9日は障害者週間です

障害者週間は、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的に設定された週間です。

☎社会福祉課共生社会係 95-1904



12月号から5回にわけて、一人ひとりちがっているみんなが、それぞれに生活がしやすいまちをつくるためのヒントを探します。いろいろな「不便さ」や「困ったこと」の解決方法を考え、一人ひとりが「できること」を探しに行きましょう。

未来へのヒント

なぜだろう？理由を知ることから始めよう



会話をするときには、義足を使う人、車いすを使う人、杖を使う人、ベビーカーに乗る赤ちゃんもいます。それぞれに理由があって、ちがいがあります。その他にも、いろいろなちがいが、みんなそれぞれにあります。ちがう「理由を理解」できると、「不便」や「困った」をどうすれば解決できるのかについて、一緒に考えることができるようになります。そして、みんながそれぞれに感じている「不便」や「困った」ことを「力を合わせて解決」することができるようになり、みんなにとって生活しやすいまちになります。

☎社会福祉課共生社会係 95-1904



12月号から5回にわけて、一人ひとりちがっているみんなが、それぞれに生活がしやすいまちをつくるためのヒントを探します。いろいろな「不便さ」や「困ったこと」の解決方法を考え、一人ひとりが「できること」を探しに行きましょう。

未来へのヒント

困ってる？感じた時は聞いてみよう

みなさんは、困っている時「手伝ってください」と声に出せるでしょうか？困っている人に気がついた時「お手伝いしましょうか」と声に出せるでしょうか？声に出せると、どう変わるでしょう。「助けてください」「お手伝いしましょう」と声に出すことで、どちらの立場でも「気づいたり」「気づいてもらったり」「ありがとう」「どういたしまして」など気持ち良く話すことができるようになります。けれども「手伝って」と声に出せない人もいます。困っている人に気がついた時には「お手伝いしましょうか？」と声に出して「聞いてみる」ことを忘れないでください。みんなの「気づき」と「声かけ」で、みんなにとって生活しやすいまちになります。 ☎社会福祉課共生社会係 95-1904



共生社会の理解に役立つ絵本「ワラビーのレストラン クワガドーエのお客さん」(発行：江戸川区)を町立図書館でぜひご覧ください。(江戸川区ホームページ「共生社会のえほん」では、オーディオブックも公開されています)



お知らせ 令和6年4月1日から、事業者も、合理的配慮の提供が義務化されます！

改正内容	行政機関	事業者
不当な差別的取扱い	禁止	禁止
合理的配慮の提供	義務	努力義務 → 義務

障害者差別解消法がわかります！



12月号から5回にわけて、一人ひとりちがっているみんなが、それぞれに生活がしやすいまちをつくるためのヒントを探します。いろいろな「不便さ」や「困ったこと」の解決方法を考え、一人ひとりが「できること」を探しに行きましょう。

未来へのヒント

一人で困ったら だれかの力を借りよう

みなさんは、困っている人に気がついて、何に困っているのかを聞いた時、一人でお手伝いをするのが難しいと思ったらどうしますか？その時は、困っていることをだれかに伝えて、お手伝いをお願いしましょう。力を合わせてお手伝いをすることができます。もし、お手伝いができなくても、困っている人がいること、困っている理由をだれかに伝えることができます。そして、お手伝いをお願いすることができます。みなさんの一声から助け合いが始まります。だれもが、いつでも、どこでも「気づき」「声かけ」「助け合い」ができると、みんなにとって生活しやすいまちになります。



☎社会福祉課共生社会係 95-1904

共生社会の理解に役立つ絵本「ワラビーのレストラン クワガドーエのお客さん」(発行：江戸川区)を町立図書館でぜひご覧ください。(江戸川区ホームページ「共生社会のえほん」では、オーディオブックも公開されています)

